

1. 科目名 (単位数)	異文化コミュニケーション演習 (2単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	EDMP5364
2. 授業担当教員	坂井 二郎			
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	異文化コミュニケーションは、異文化環境下でのコミュニケーションや文化背景が異なる者同士によるコミュニケーション事象などを対象としている。多文化共生やグローバル化が進む国際社会では、どのような対人関係が形成され、その関係間ではどのようなコミュニケーション事象が展開されているのか。本講義では、異文化の対人関係形成や効果的な異文化コミュニケーションについて考察していく。異文化研究や比較文化研究をする際の問題を取り上げながら、とくに異文化コミュニケーション能力を高めるためのトレーニングなどについて、実践的に進めていく。			
8. 学習目標	1 コミュニケーションについて、異文化研究や比較文化研究の方法を実践的に理解することができる。 2 コミュニケーション行動の文化比較をすることの意味を考察することができる。 3 ルールに表された行動の意味を理解することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回の学習の課題、キーワードについて事前に調べたり考えをまとめたりしておくこと。 各自の研究テーマと異文化コミュニケーションをつなぐ指定文献を講読し、プレゼンテーションを踏まえてレポートを作成する。 詳細は授業内で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料は適宜授業で配付する。 【参考書】 小坂貴志 著『改訂版 異文化コミュニケーションのA to Z-理論と実践の両面から分かる』研究社、2017。 久米昭元・長谷川典子 著『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書、2007。 末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子 編著『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版、2011。 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。 日本コミュニケーション学会 編『現代日本のコミュニケーション研究』三修社、2011。 堀洋道 監修・山本真理子 編 他『心理尺度集I~VI』サイエンス社、2001 他。 その他文献は講義内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 コミュニケーションについて、異文化研究や比較文化研究の方法を実践的に理解することができたか。 2 コミュニケーション行動の文化比較をすることの意味を考察することができたか。 3 ルールに表された行動の意味を理解することができたか。 ○評定の方法 授業への取り組み度 20% モデル案の作成 40% プレゼンテーション 40% これらを総合的に評価する。			
12. 受講生へのメッセージ	異なる文化、多様な文化の人々の行動に興味を持っていることが望ましい。 自身の身近な生活の中にある異文化を意識して人間行動を観察し、関連付けながら受講することを勧める。 講義内容を積極的に聴き、自身の意見や考えについて活発に発信していくこと。			
13. オフィスアワー	初回の授業内で通知する。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	異文化コミュニケーションとはなにか			
	【学習の目標】文化とはなにか、コミュニケーションとはなにかについて改めて理解を深める。 【学習の内容】異文化理解特論の内容を踏まえ、異文化コミュニケーションに影響を与える各要因について概観していく。 【キーワード】文化、コミュニケーション、異文化接触、文化的価値、非言語、不確実性、異文化適応 など。 【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。 【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は授業内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。			
2. テーマ	異文化コミュニケーション研究の歴史と異文化トレーニングの誕生			
	【学習の目標】コミュニケーション学から異文化研究の流れをつかむことができるようになる。 【学習の内容】コミュニケーション学研究的歴史から異文化の視点が入り入れられた背景を概観していく。 【キーワード】オーラル・コミュニケーション、レトリック、哲学者とソフィスト、スピーチ研究 など。 【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。 【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。			
3. テーマ	異文化コミュニケーション能力			
	【学習の目標】異文化の他者とのコミュニケーションや異文化環境下で必要となるコミュニケーション能力について理解する。 【学習の内容】コミュニケーション能力とはなにか、文化特有のコミュニケーション能力と文化に普遍性の高い能力について概観していく。			

	<p>【キーワード】コミュニケーション能力、異文化コミュニケーション能力、ソーシャルスキル など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
4. テーマ	異文化トレーニングの背景
	<p>【学習の目標】異文化トレーニングとはなにか、ルールの違いや行動の意味について理解する。</p> <p>【学習の内容】異文化トレーニングの始まりや歴史的背景について概観する。</p> <p>【キーワード】知識学習、体験学習、異文化適応 など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
5. テーマ	異文化トレーニングの種類
	<p>【学習の目標】異文化トレーニングとして実践されている方法について理解する。</p> <p>【学習の内容】異文化トレーニングの種類やその効果などについて考察していく。</p> <p>【キーワード】シミュレーション、カルチャー・アシミュレーター、クリティカル・インシデント、ロールプレイ など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
6. テーマ	言語コミュニケーションの実践
	<p>【学習の目標】言語コミュニケーション行動に表出される文化的特徴について説明できる。</p> <p>【学習の内容】文化的な言語コミュニケーションの表現方法や用語の等価性や整合性について解説していく。</p> <p>【キーワード】論述表現、垣根表現、婉曲表現、断定表現、用語の整合性 など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
7. テーマ	非言語コミュニケーションの実践
	<p>【学習の目標】非言語コミュニケーション行動に表わされた意味や印象について説明できる。</p> <p>【学習の内容】非言語行動の観察から推察される文化的特徴について解説していく。</p> <p>【キーワード】準言語-スピード、滑舌、間の取り方、姿勢、視線活動、印象形成 など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
8. テーマ	クリティカル・インシデントの実践
	<p>【学習の目標】疑似的な体験を通して、経験的に知識を習得する。</p> <p>【学習の内容】クリティカル・インシデントの事例を用いて文化比較をする。</p> <p>【キーワード】アウェアネス、マインドフル、不確実性、価値観、エポケー など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
9. テーマ	クリティカル・インシデントの作成
	<p>【学習の目標】自身の経験をもとに、クリティカル・インシデントの教材案を作成する。</p> <p>【学習の内容】異文化コミュニケーションにおいて問題が発生した場面をエピソードとして説明してまとめていく。</p> <p>【キーワード】カルチャーショック、適応、期待、DIEメソッド など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
10. テーマ	異文化ビジネス研修
	<p>【学習の目標】クリティカル・インシデントの教材案をもとに、組織や集団における事案について検討する。</p> <p>【学習の内容】異文化ビジネス研修の背景や概要について概観する。</p> <p>【キーワード】異文化経営、意思決定、組織コミュニケーション、異文化交渉、多国籍チーム など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
11. テーマ	コミュニケーション能力の測定
	<p>【学習の目標】前回までの教材案をもとに、異文化トレーニングのモデル案を検討する。</p> <p>【学習の内容】コミュニケーション能力を測定する尺度について概観し、能力を高めるためのトレーニングを考察する。</p> <p>【キーワード】行動尺度、意識尺度、リサーチ・デザイン、探索的調査</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
12. テーマ	異文化コミュニケーションの研究対象と方法

	<p>【学習の目標】 調査の範囲と限界について理解することができる。</p> <p>【学習の内容】 文化研究の社会調査を実施する際に、どこ、だれ、なにを対象にするのか検討する。</p> <p>【キーワード】 サンプルング、調査地、調査対象者、測定要因、一般化 など。</p> <p>【学習の課題】 調査対象として可能な相手や場所について検討する。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
13. テーマ	異文化研究の等価性
	<p>【学習の目標】 文化を扱うことの意味や比較することの意味について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 文化を比較するとはどういうことか、文化比較のための準備や手続きについて解説していく。</p> <p>【キーワード】 測定方法、バックトランスレーション、地域性、信頼性、ダミー変数 など。</p> <p>【学習の課題】 社会調査のために必要なさまざまな手続きについて準備する。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
14. テーマ	プレゼンテーション
	<p>【学習の目標】 作成してきた異文化コミュニケーションのトレーニング案を説明する。</p> <p>【学習の内容】 作成したモデル案やモデル尺度を使用して、異文化コミュニケーション研究の発表をする。</p> <p>【キーワード】 各テーマで挙げたキーワード全体</p> <p>【学習の課題】 テーマ12およびテーマ13の学習内容を踏まえ、口頭で説明ができるように十分理解しておく。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究で使用予定の手法があれば、不明な部分がないようにしておく。</p>
15. テーマ	総括
	<p>【学習の目標】 ノートや資料、発表内容を整理してレポートが作成できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 全体的な復習をし、これまでの発表内容とプレゼンテーション評価をレポートとしてまとめていく。</p> <p>【キーワード】 各テーマで挙げたキーワード全体。</p> <p>【学習の課題】 キーワードを手掛かりに、既習内容について不明な点がないか全体的に確認しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は授業内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 これまでの講義内容、発表内容を踏まえてレポートを作成できるようにノートや資料を整理していく。</p>